

民国期の中山服に関する一考察

乗 松 佳代子

要旨

本論では既に実施した現代中国の服装への研究を基に、孫文がデザインし、創作したとされる「中山服」にテーマを絞って考察していくこととする。中山服は孫文の死去後、広東革命政府で孫文の出生地である広東省香山県（中山県）と、孫文の名前である孫中山の双方に因んで命名された。そして、国民党政権が国民に対して孫文の個人崇拜を求める流れの中で公務員の制服になり、さらにそれが全国的規模で浸透或いは流行していくに従って、徐々に中国をイメージする国民的服装から国民服の象徴となっていく。それゆえ、中国革命と共に歩んだ孫文が創作したといわれている中山服は、一種の政治的記号の役割を果たすことになる。

本論では中華民国における中山服の創作と、それが流行に至った理由。また、そこに至るまでに国家権力が果たした役割について考察し、国民党政権が中国人の日常に与えた影響を明らかにした。また、中山服に関わるいくつかの歴史的に特記すべき日を、それらに言及したメディア資料を基に考察した。

キーワード

民国期、孫文、中国革命、中山服、政治シンボル、

はじめに

二千年程続いた中国伝統衣装は、民国期に入り新たな衣服へと主役の座を

受け渡すことになる。近代化への歴史的革命、辛亥革命。その象徴として誕生した中山服が、中国を代表する衣服として主役の座に躍り出たのである。

20世紀初頭、男性衣服の中山服、女性の「旗袍」は、パーティ会場の華であった。そして、特に中山服は、社会情勢の変化と政治的思惑が絡み合って、国民生活に広く浸透していった。しかしながら当時の資料を見ると、国民は社交の場で、伝統的服装の「長袍」、西洋式服装の「背広」、中山服等を、それぞれTPOに合わせて使い分けていたことが窺える。

ところが、民国期の中頃になると、当時の写真を見る限りでは、公の社交の場は中国式中山服が主役となっている。その変化の背景には何があったのか。中山服の誕生から、それが国民に浸透する過程を時系列に沿って、男性の衣服を中心に、当時の社会情勢をとらえながら追跡し、考察していく。

黄敏は、「株州師範高等専門学校学報」の「民国時期的服装研究」で中山服の様式を次のように述べている。¹

孫文の政治威信によって、政治官僚と文化人も中山服を愛着していた。中山服は民国時代のファッションのひとつとなり、民国期の三つの男性服装（中山服、長袍、背広）のひとつでもある。1945年国民党と共産党が交渉した際、蒋介石と毛沢東は中山服を着用していた。

また、陳蘊茜は、「身体政治—国家権力と民国期における中山服の流行」の論文中で、次のように述べている²。

国民党はいろんなところで孫中山を崇拝する運動をした。また、服装を利用して人々の服装の空間に孫中山の符号と三民主義の意識を浸透していった。中山服は中国の伝統の服装とも違い、背広という新しい服装とも違う。国民党の政権と孫中山の排外運動の広がりによって全国で流行し、中国を代表する国服となった。清朝を反対する革命のリーダーとして、孫中山は服装の改革を政治的意識があるとしている。それに服装を改革するのに、中山服を標識としている。1912年、孫中山は中国の礼服を作ることに提出、服装のスタイルと国の政治の間に、密接な関連があると認識した。中山服は一般的な制服より、政治の意味を持っている。だから、三民主義の象徴となる。

実際に政府部門で仕事をする人は、制服として着る人は少なかった。しかし、中山服は革命の象徴と見られていたから、若者にとって憧れでもあり、私服のファッションでもあった。だから中山服は、中国人の服装として社会に表出した結果となった

今回上記に掲げた先行研究で、「中国国民のファッションであった」と両者は述べているが、実際の状況はどうだったのか、主に当時の新聞記事を通じて考察したい。また、中山服は平面で見るとはがっしりとしたデザインであり、着用することで初めて品位が現れる衣服であるが、当時の中国服飾社会での需要はどうだったのかを考察する。さらに、民国期の中山服は、革命の象徴でありながら、実際に政府部門で制服として着ることは少なかったとされているが、政府部門での中山服着用の実情を、当時の写真やメディア掲載の記事などから分析、明らかにする。

これらの諸資料から、第一節では「孫文と中山服」として、中華民国の成立と中山服の創出、中山服の広がりについて考察する。そして第二節では、孫文の国葬、国慶節における中山服の役割について考察する。資料としては、『申報』³、『中央日報』⁴の関連記事を利用する。

一. 孫文と中山服

1. 中華民国の成立と中山服の創出

中国は過去の歴史に偉大な文明の栄光を誇ってきた伝統国家であり、反面、その伝統の重圧は中国社会を窒息死させることが多い。清末もその例にもれなかった。

アヘン戦争（1840年～42年）では、清朝がアヘンを取り締まり、反発したイギリスが中国を攻撃。清朝は林則徐を中心に交戦したが敗北し、1842年の南京条約で香港を失う結果となった。“眠れる獅子”として恐れられていた中国がイギリスの艦隊に敗れたことは、中国が奈落の底に落とされる始まりとなり、中国は存亡の危機をむかえることになる。この危機に直面して、憂国の中国知識人は、いかにしてイギリスをはじめとした西欧列強に対抗できるか、あ

るいは中国人的自負から云えば、西欧世界を凌駕できるか、中華世界を再生できることができるかと模索しはじめた。当時の外圧は「ウエスタン・インパクト（西洋の衝撃）」と表現され、それを契機として中国の模索が始まる。

その模索の中で中国も、黒舟の脅威に直面した日本と同様、すでに近代化を達成した西欧国家を、目指すべき近代化のモデルとして掲げることとなる。モデルとした西欧国家とは、当時世界最大の帝国であったイギリスであり、フランス革命を成し遂げたフランスであり、さらには新興国家としてのアメリカであり、軍事的発展が国に浸透したドイツ帝国であった。後には、アジア最初の近代国家建設に成功した日本もその一つのモデルとなる。

アヘン戦争から辛亥革命までに至る、以後約70年間にわたる中国の近代化の努力は、大きく分けて、洋務運動、変法運動、革命運動の3つの運動に分類される。それらの運動は、政治制度の変革を唱えたもので、単に法律のみを変えるのではなく、皇帝専制支配から立憲主制への制度全体の変革を目指した近代化運動であった。当時の改革推進派は、大衆を近代化の流れへ動員していくためには、教育、政治、軍事などの近代化が必要であると訴え、改革の中心的なモデルとなったのは、先進国家のイギリスやフランスではなく、スタートは遅れながらも急速に近代化を進めたドイツ皇帝・ウイリアムの軍事進化であり、ロシアのピョートル改革であり、そして日本の明治維新であった。

そのような時代背景の中で、革命派の中心的指導者として崇められてきた孫文は、実は少年期にハワイで英語教育を受けながら育ったという特異な経歴を持っており、それゆえ、孫文にとってアメリカは憧れの国であった。改革の中、革命理念同士の壮烈な闘いをくぐり抜けた孫文は、徐々に変革の道を固め、その一つの到達点として辛亥革命をむかえる。

一方、当時の日本に目を向けてみると、そこは多くの中国亡命革命家にとっての亡命の地となっていた。中国で革命蜂起した孫文も、一時期日本へ亡命している。この亡命楽天地を、清朝政府が苦々しく思っていたのは言うまでもない。そこで清朝政府は、日本政府に対して孫文の逮捕と引き渡しを要求し、当時日本の韓国統監であった伊藤博文が孫文と関係の深い内田良平を呼んで善後策を検討。その結果、伊藤は孫文が自発的に日本から退去する方法を論ずるこ

ととなった。

1905年、孫文は日本から中国に帰国するが、同時期に、中国浙江省寧波出身の張方誠という人物が横浜に紅幫裁縫⁵の修行に訪れていた。寧波服装博物館の資料によると、その張方誠が制作し、孫文が中国へ帰国する際に持ち帰った衣服が、最初の中山服だとされている。

張方誠の制作したその衣服は、襟ぐり八字型、袖は長袖、前身頃中心ボタンは9つ、後中心直線縫い、腰には広幅のタックが施されており、正面から見ると上下左右に各1つずつ、蓋のついた袋ポケットが付いているというもので、一般的に知られている中山服のスタイルとは、随分異なったシルエットだった。⁶その後中山服は、前身頃中心ボタン7つになり、4つの袋ポケット、襟は台付きカラーとなり、新軍服に似ているとも言われているスタイルへと変化を遂げ、さらに改良され、最終的に前身頃中心ボタン5つのスタイルになる。

清朝末期まで中国人が愛用していた衣服は、「企領文装」と呼ばれるものであった。企領文装は、南洋で育ったともいわれ、若者たちを中心に、当時の背広より実用性が高いということもあって人気があり、孫文も愛用していた。しかし、企領文装は活動的ではなく、さらに外交上、外国人と会見する際、長衣というスタイルが古臭く、封建体制と一線を画することができないとも考えた孫文が、典型的な中国式男性服装の中山服の創作を紅幫裁縫師たちへ託したとされる。

20世紀初頭の中国で、長きにわたって続いた皇帝専制の王朝支配体制を終焉させるアジア最初の革命が起こる。それは干支でいうところの「辛亥」の年、1911年に発生したことから、「辛亥革命」と名付けられることになる。

辛亥革命は、皇帝専制支配の打倒を標榜すると同時に、満州民族の支配を打倒して、漢民族の支配を復活させる「漢族革命」でもあった。これは、中国同盟会の革命綱領に、満州民族の支配を打倒しようとする記述が残っていることから明らかである。その後、満州門族を打倒して中華民国の建設を宣言した「臨時大總統宣言」から、孫文は「五族共和」を唱えはじめる。

一方、辛亥革命の勃発から中華民国設立に至るまでの社会の変化は、メディアの報じ方からも追うことが出来る。当時の新聞『申報』によれば、1911年

10月24日、「革命軍の旗を翻している」と掲載。11月5日、清の年号が変わり、同紙に新しく「辛亥」という年号が書かれている。そして1912年1月9日の紙面では「民国」の年号を使用し始め、1月13日には「宣統帝、退位を表明」の記事を掲載。さらに同年12月10日、「中華民国大綱」が掲載されている。そして、このように中華民国が成立し、皇帝が退くという歴史的状況の変化の中で、中国服飾社会にも大きな変革が訪れることになる。

1912年1月1日、中華民国成立し、「ラストエンペラー」として有名な清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀が正式に退位したのは1912年2月12日。清王朝を打倒するという極めて限られた意味での辛亥革命は、勃発から完了まで僅か4ヶ月にすぎなかった。

1911年12月25日海外から上海に到着した孫文は、翌日の12月26日に南京で代表者会議を開催し、29日に臨時大總統選挙を実施するために各代表が南京に集まることを要請した。そして29日南京の蘇州諮議局で各省都督府連合会が開かれ、臨時大總統選挙が行われた。集まった代表は17省45人、投票権は各省1票であり、投票結果は孫文16票、黄興1票であった。こうして武昌起義から2ヶ月半後、統一革命政府が樹立され、孫文が各種勢力のバランスとして初代の臨時大總統に選出された。

1912年1月1日、正式に中華民国の成立が宣言され、南京に臨時革命政府が樹立された。孫文の臨時大總統任命式服装は、写真で見る限りでは学生服もしくは軍服とも理解できるが、この時すでに、中山服の原型スタイルに似ている、前身頃中心5つのボタン、上下左右4つのポケット付きを着用していた。(写真1)



(写真1) 「1912年1月 孫中山臨時總統府就任」
出典：南京總統府資料館にて、筆者撮影

2、中山服の広がり

先の項目で述べたように、中山服は1905年、張方誠が日本で初めて創作したと言われている。その後、孫文が日本で接した学生服、軍服のデザインを理想とする部分を採用し、さらに西洋の軍服なども採用。いわば孫文オリジナル中山服の制作を上海紅幫裁縫師たちに託した。そして、今日の中山服の原型は、榮昌祥が設計、王才運によって制作されたと、陳万豊は『紅幫裁縫与寧波服装研讨会文集』の「中山服装出处初析」の中で述べている。⁷

しかし一方では、広東省の洋服屋黄隆生が孫文創作のアシスタントとして作成、世界で初めて中山服を制作したという説もあり、⁸ 中山服の誕生と創作過程については諸説存在するのも事実であるが、いずれにしても孫文を取り巻く仲間たちが、孫文の意図のもとに中山服の理想のデザインを創作していったわけである。

そして、今日でも愛用されている中山服の基本原型のシルエットは、民国時代と変わらず、台付きシャツカラー、前身頃中心5つのボタン、4つのポケット（前身頃上の左右逆山路型ポケットマチ付き貼りつけポケット、左胸ポケットにペン挿しコーナー付き、前身頃下左右逆山路型蓋付きマチ付き貼り付けポケット）、袖口に3つの小粒のボタンが備わっているものである。

1912年3月5日、孫文は長髪、辮髪廃止を一律中国人民に通達した。そして民国政府参議院に『服装条例』⁹を提出し、通過。同年10月、参議院で『服装制度案』が可決され、男子の服装は国産の生地に国産の糸、麻、綿製品を使うことに。実現性には欠けるものであったようだが、一連の試み自体は、服装改革を実施し、生地を輸入を減らそうとする大きな意味を持つものであった。そして、1925年孫文が逝去した後、広州革命政府は孫文の出生地である広東省香山県（中山県）の名前と彼の本名「孫中山」に因んで、孫文が考案した服装を中山服と命名する。¹⁰

清朝打倒の革命リーダーとして、孫文は服装の変化がもたらす政治的意義を深く理解していた。彼は、清朝まで続いた辮髪を廃止、髪を短く、服装を変え、革命のシンボルとしたのである。1912年に孫文は「礼服は規定された服に必ず変更しなければならない。日常生活の服は、自由に着ても良い…礼

服は団体と密接な関係があり、軽率に定めるものではない。そして、今どきの西洋服装をみると、ふさわしくないところもある。民族的な服装洋式は衛生的、経済的でなければならない。したがって絹業界、服装業界は改良を図らなければならない。衣料は国内製品でなければならないと希望を国民にメッセージを伝える」¹¹と、中国独自の礼服を制定することを提起。孫文は、服飾制度と団体の関連性を表明し、革命のシンボルとして中国人の審美眼に合い、実用性も高い服装を設計したのである。そして同年10月、『服装制度案』が施行されたわけだが、以後民国末期までの間に、孫文が率いる革命派によって中山服の存在が中国服飾社会にどこまで浸透していったのかを分析する。

孫文は軍事独裁化による政権強化を願っていたが、彼が樹立した南京臨時政府の実態は相反するものであり、やがて孫文政権の弱体化が進むと、革命派の流れは強力な軍事力を配する袁世凱待望論に傾いていく。1912年1月22日、孫文は早くも袁世凱に対して和議条件を提出することになる。臨時大総統に就任してから1ヶ月もたたずに、孫文は権力の座を袁世凱に与える決断をせざるを得ない状況に追いやられたわけだが、孫文は後にこの失敗を、「革命同志が革命精神を喪失した結果である」と述べている。

1913年10月10日、袁世凱は正式に大総統に選出され、そして1915年12月12日には皇帝の座についた。しかし袁世凱は1916年6月6日病気で死去。袁世凱に皇帝の座を譲った孫文は、中華革命党の建設に乗り出した。そして亡命先の東京で新しく中華革命を結成し、再起を図ることになる。袁世凱の死後、中国では政治分裂が起こったが、この混乱状況を誰も収束することは出来ず、結集力を喪失した孫文（中華革命党）も、統一の主導権を握ることは出来なかった。

1917年9月、孫文は広州軍政府大元帥に就任したが（写真2）、やがて護法軍政府において孫文の独裁に反対した権力争いが生じる。政学系の正客・岑春煊が中心となり、陸榮廷等と組んで孫文追い落としを図ったのである。1918年5月4日、国会非常会議は、孫文の反対を押し切って軍政府の改組を決定し、孫文は大元帥を辞職する。（写真3）

1919年5月、五・四運動という大きな民族運動の高まりを迎え¹²、1923年

3月2日、孫文は実質的に孫文の政権であり、一党独裁の軍政府である「国民党」を樹立し、ようやく「以党治国」の思想を達成できる条件を整える。中華革命派は、ソ連との連携、共産党との国共合作という、新しい道を歩み始めたのである。しかし、簡単に旧体質を一掃できるわけではなかった。

一方、1921年7月23日、中国共産党は上海のフランス租界の一角で、創立大会を秘密裡に開いた。そこで陳独秀が中央局書記長に選出された。孫文的な旧式革命では、中国は救えないと憂慮した新しい政治的自覚層が、社会主義という新しい革命理論で武装し、プロレタリア革命という新しい革命を目指し、共産党という新しい革命結社を組織したのである。

そのような中で、孫文に武力援助の手を差しのべたのはソ連であった。1923年1月、ソ連はヨッフエを派遣して、「孫文・ヨッフエ」連合宣言を発表した。ソ連が中国において国民党を正式のパートナーであると明言したのである

かくしてコミンテルから政治顧問としてボロディンが派遣され、多くの軍事顧問団が孫文の軍事革命路線を指導することとなり、国共合作が始まった。その政治的転機を現在の共産党は、「連ソ・容共・扶助農工」という「三大政策」の採用として説明している。それは「旧三民主義」から「新三民主義」への大



(写真2) 1917年大元帥府宋慶齡との記念写真(孫文は中山服を着用)。

出典：南京總統府資料館にて、筆者撮影。



(写真3) 1918年3月、広州の大元帥と官僚たち記念写真。孫文と数人中山服着用。筆者撮影。

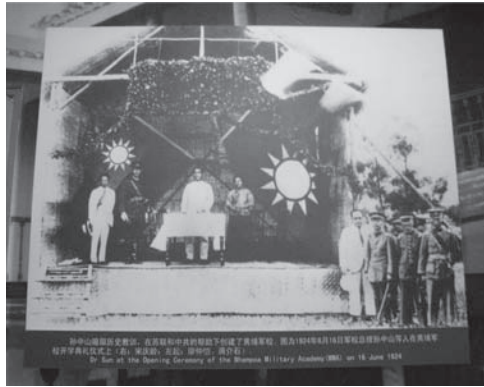
転機ともいわれている。¹³

孫文は1923年8月、蒋介石を代表とした孫逸仙博士代表団をソ連に派遣した。蒋介石は特にロシアのトロッキーから、政治教育で革命武装した革命軍の重要性を叩きこまれ、広州に黄埔軍学校を建設し、孫文総理、蒋介石校長、蒋介石が政治部副主任に就任。1924年6月16日、陸軍軍官学校(黄埔軍学校)を開校した。(写真4)

その後、孫文思想の集大成である「三民主義」講話は、1924年1月から8月にかけて毎週1回講義された。1895年から30年間に及ぶ長い革命活動を踏まえた総集編である。孫文は肝臓がんに侵された中、1924年11月28日、神戸高等女学校で「大アジア主義」と題した講演を行っている。そして1925年3月12日、孫文は北京の胡同の仮室で静かに息をひきとる。ついに大中華総合の夢は果たせぬまま、「現在革命尚未成功」という無念の言葉を残して、この世を去ったのである。

しかしながら孫文亡き後も、彼が理想とした中山服は、民国末期までの間、中国の服飾文化という舞台上、彼が目指した政治体制の記号としての役割を演じ、今日において、その存在感が再度見直されようとしている。(写真5)

中山服の歴史に目を戻すと、民主共和体制を築き上げた孫文



(写真4)「1926年6月16日、陸軍軍艦学校(黄埔軍学校)開校。孫文は中山服を着用、挨拶。出典：南京總統府資料館にて、筆者撮影。



(写真5) 1928年8月、国民党二回五中全会の代表写真記念。33名中の30名(中山服、企領文装含む)。出典：南京總統府資料館。筆者撮影。

は、三民主義理念の、或いは「革命」の象徴として、自ら先頭に立って中山服を自ら着用し、中山服は一時的に大流行となった。そしてそれは、後に南京国民政府の統一制服になり、「服装平等」をも意味するものとなる。つまり中山服は、中国の服装歴史上に一種の革命を起こしたのである。陳蘊茜は、「身体政治—国家権力と民国期における中山服の流行」の中で、次のように述べている。

「1925年の後、国民党は孫文への個人崇拜を唱え、中山服の流行は、ただのファッションばかりでなく、国が民衆を導く結果となった。国民党が政府機関、学校等から中山服を広め始めた。まず、中山服に革命的、進歩的、ファッション的イメージを与えようとし、民衆にそのようなイメージを抱かせ人々の身体を規律＝訓練することに実現を図った。1928年3月、国民内政部は、部員に中山服を着用するよう命じた。」¹⁴

1928年4月、首都市政府は革命精神を高揚するために、職員に「一律中山服を着用」を命じた。そして1929年4月、第二十二回国務会議で「文官制服礼服条例」を採決し、中山服は法律上の制服となる。

中華民国成立以後の中山服の広まりは、首都南京、孫文の故郷広東省を中心に、孫文引き入る革命派の人々によって拡張された。さらに1934年、蒋介石によって発動された「新生活運動」では、当時舶来中心になっていた中国市場を自国製品中心に切り替え、衣服の制作には自国の生地を使用するよう国民に推奨した。その流れの中で、婚礼時にも中山服（企領文装）を着用する人たちが増えていった。（写真6）

では、公務員以外の国民は中山服にどのように関心を持ち、接していたのであろうか。

1928年から1929年の間に出版された第九十九期『小説』見



（写真6）1948年8月、一般の中国人結婚式。（中国式服装中心）。北京市潘家園第八届全国連環画交易会ビル骨董品店にて、筆者撮影。

多識廣 賊菌作¹⁵には、当時の中山服着用状況が次のように記されている。

それは、中華国家展覧会が開催された会場の入り口で、来賓を迎える接待係はみんな中山服を着用していた。その生地は中国伝来のウールの織物であり、サテンシルクで作られていた。西洋の生地から作った中山服は一つもなかった。また、入場券チェック係、来賓にサインをしてもらう接待係の女性も旗袍を着ていた。済南事件で、中国人は日本の製品をボイコットしたので、中国の製品に関心が高まり、展覧会会場へ訪れる中国人は多かった。

以上の事柄からわかるように、公務員のように制度上の着用義務はないものの、蒋介石が発令した新生活運動の流れを受け、一般国民にも徐々に中山服が浸透していったのである。また、アメリカの Antonia Finnane は、中山服の広まりについて以下のように述べている。¹⁶

1920年、中山服は若き革命家の間で人気が出た。そして民族革命と歩調を合わせ、小さな田舎、街でも一般的な衣服として広まっていった。民主革命の後、北部（北京周辺）の人々の間でこの衣服の着用者が増えてきた。このことは中山服に関する記事の中で、彼の遺体が葬儀のため南京から北京に移された際に出版された *the Beijyan Pictorial* に掲載されている。このリポーターによると、オリジナルであるかどうかは孫文の長年の仲間であった人の次のコメントによっても理解できる。これまでの首相は総司令官として着任した後、ある日軍隊を視察しようとして、司令官としてのユニフォームを着たいと考えた。しかし、彼は西洋の背広が好きではなかった。旅行する際のスーツケースを見わたした時、イギリスで着用した事のあるハンティングスーツが目にとまった。これだと思った彼は、それを着て出かけた。それ以来彼の部下たちはみな同じデザインを着るようになったのだが、それが今日、中山服と呼ばれるようになった衣服であった。

上記の資料は、中山服の存在はアジアだけでなく、孫文が活動した多くの国で、孫文と中山服の足跡を残しているということを明らかにしている。

中山服は民国時代、中国国民のあらゆる年齢層へと広まっていったが、良質

な生地のもは、庶民は手の届かない高値の華でもあったようだ。また、中山服そのものが、徐々に高額化して行き、窃盗、詐欺刑事事件に関わり、他の高価な品物と一緒に盗まれることも多かったという。以下に、その例を掲げる。

(1) 「洗濯店強盗事件」¹⁷

事件の時間：民国 34 年（1945 年）9 月 24 日

事件の経過：民国 34 年 9 月 21 日午前 5 時、3 人の強盗はピストルとナイフを持ちながら、注文した服を受け取りに来る客に偽装して、大同路 427 号の新亜洗衣店の財物を奪った。事件の発生は早朝だったので目撃者がなく結局強盗は捕まらなかった。

奪った物：盗まれたものは全部で 18 種類。灰色格子模様の背広（上下 1 セット）2 千元、黒ラシャ中山服（上下 1 セット）7 万元、白いズック背広 7 万元、灰色ラシャ背広（上 4 着）2 千元、白いセルジェの背広ズボン（6 着）3 千元、純金の指輪（11 グラム）2 万 2 千元、その他 12 点。純金の指輪の値段の価格を考えると、中山服は高すぎる値段だ！

(2) 「中山服詐欺事件」¹⁸

事件の時間：民国 35 年（1946 年）8 月 25 日

事件の経過：警察に通報する人は孫栄祥（協成童衣工場の営業マン）。容疑者金国強は 8 月 15 日の午後、孫栄祥に青年装、中山服を注文した。金額は 46 万 6500 元。8 月 30、31 日、孫栄祥は銀行で小切手を変えようとしたが、口座の残高が足りないところで銀行に断られた。万紅公司に聞くと、金国強はただその会社の売り場を借りるだけで、そして、すぐに逃げたということだった。それで孫栄祥は警察に通報した。

詐欺をした衣服：黄色い撥水布中山服（6 着）27 万 5000 元、青い Khai drill（生地の名）中山服（6 着）8 万 5000 元、灰黒色 Khai dril 中山服（6 着）8 万 5000 元格子模様布ダンススカート 12 着 3 万 6000 元。

上記に掲げた二つの事例は、1945 年、1946 年、上海特別市警察局の管轄で取り扱った事件である。当時職工の一か月の給料が 100 元の中、中山服が 1 着 7 万元とは、事件にかかわった中山服が如何に効果であったかが覗える。もは

や中山服は、庶民の手の届かないところに存在する衣服になっていったのである。この中山服が高価になっていったことへの考察については、今後の研究の課題にしていきたいと考えている。

以上より、先行研究として参考とした黄敏、陳蘊茜両者による中山服は、「中国国民のファッションとなった」との見解は、当時の社会状況から考えて、疑問の余地が残るものだと筆者は理解する。当時の中国国民は、中山服を新しい中国服装として関心を示したようであるが、それは高値の華であり、ある一定の富裕層に属する人たちにしか着用できなかった服装であったのではないだろうか。そして、先行研究で述べられているところの「ファッション」とは、国民の間でというよりは、一部富裕層の間でのファッションと解されるべきであろう。

因みに、中山服は民国期末にかけて政府部門の制服になり、一種の政治的シンボルを担ったわけだが、当時の政府部門で着用した制服としての中山服の価格は知られていない。

服装は、人間に対して感情の表出、イメージチェンジ、心理需要の満足等を実現させる機能を持っている。人々は服装という符号を通じ、思想と感情を着用状態で実践し、社会の共同認識をも達成させる。中山服は政治・思想・文化、感情の共同化形成プロセスにおいて、意味のある役割を果たした。そして中山服の広がりや流行は、中国の服装様式の、伝統の長衣から欧米式の短い丈の上着への移行を加速させた。

民国時代、国家権力によって政治的符号として推奨された中山服は、同時に、「新しい服装」として中国人の間で注目を浴びた衣服でもあった。

二. 孫文記念における中山服（忌日、国慶節）

民国時代中国革命の指導者孫文は、1866年11月12日、中国広東省香山翠亨村で誕生し、1925年3月12日、死去した。「中国革命の父」と呼ばれた孫文が、死去した3月12日は「孫文の国葬記念日」とされ、死後も国民の心に刻まれることとなった。

また、孫文の死後、中国政府の政治実権を握るようになり、1927年4月28

日に南京国民政府を設立した蔣介石は、武昌で辛亥革命が起きた10月10日を国慶節とし、南京国民政府の統一制服を孫文創作の「中山服」と定めた。孫文にまつわる2つの記念日、つまり忌日（孫文の国葬記念日）と国慶節におけるメディア記事を時系列に沿って考察し、中山服が中国服飾社会にどのようにとらえられ、浸透してきたかを分析してみたい。

1、孫文の国葬記念日—『申報』による記事（表1）

新聞	年月日	新聞記事	紙面
『申報』	1925年1月1日	全面広告：「民国が岩のように安定」祝賀	20面
『申報』	1925年1月31日	孫文の病状を報道	
『申報』	1925年3月26日	仙頭が孫文を追悼する様子の写真掲載	
『申報』	1925年3月27日	書店の店頭には孫文の伝記がない。（後日復元した。全面広告：孫文の歴史伝記4種類。	3面
『申報』	1925年3月27日	「清明節植木植樹祭」孫文の死以後、「中国緑の日」が孫文の命日の日に始まった。	4面
『申報』	1925年3月28日	「孫文への追悼」：孫文死後、毎日孫文の思い出を放送で流していると記事に掲載	4面
『申報』	1925年3月28日	孫文の葬式はキリスト教式をとらない。	2面
『申報』	1925年3月30日	外国人が孫文を追悼	2面
『申報』	1925年3月30日	国は、孫文の銅像を鑄造しようという運動を発起した。	4面
『申報』	1925年4月8日	孫文遺体安置についての記事。	2面
『申報』	1925年4月9日	「広東大学の農学部は、中山を記念するため記念植樹」の記事。	3面
『申報』	1925年4月13日	全市の追悼会が昨日行われた。10万人の参加であった。	3面

1925年3月12日の孫文死去に先立ち同年1月31日、『申報』記事にて孫文の病状を報道している。また、死後にあたる27日の記事で、「書店の店頭には孫文の歴史伝記が売り切れ」の記事が掲載されている。「表1」から見る限りでも孫文の死去に対する国民の悲しみ（つまり国民への影響力）が十分に伝わってくる。

孫文の国葬記念日—『申報』による記事(表2)

新聞	年月日	記事	紙面
『申報』	1927年3月12日	「中山逝世2周年記念」広州で記念集会。天津での記念集会は取りやめられた。	1面
『申報』	1927年3月12日	孫文二周年記念の会のお知らせ。	1面
『申報』	1927年3月13日	上海で孫文の二周年忌を記念。	3面
『申報』	1927年3月13日	孫文の二周年祭。租界の警察が警戒、上海の孫文の故宅で記念、各区で集会をもたらしした記事を掲載。	3面

「表2」は、孫文3回忌の記事である。記事からは、生きる孫文が多く携わっていた地域を中心に、孫文が亡くなったことを惜しまれているということだろうか。天津での集会は取りやめられたが、上海、広東省はその日を待つかのように孫文の追悼集会をも開いている。

孫文の国葬記念日—『中央日報』による記事(表3)

新聞	年月日	記事	紙面
『中央日報』	1929年3月12日	「今日総理命日記念」各地で式典と植樹をする。	2面
『中央日報』	1929年3月12日	中央と国民政府の記念週。首都各界が総理命日の記念式を用意する	2面
『中央日報』	1929年3月12日	三民主義の建設：(1)軍政の破壊時代から訓政の建設時代 (2)地方自治を育成する。(3)軍事の建設、国務を強化する。	3面
『中央日報』	1929年3月12日	総理を記念するための新しい方法： (1)三民主義暗唱会を行う。 (2)中山林に植樹をする。	4面
『中央日報』	1929年3月12日	孫文の生まれた年の歴史を述べる。外観農民起義のもとで、清の統治は1866年既に不安定だったと述べている。	3面
『中央日報』	1929年3月13日	「中央党部、首都各界が首都各界が総理4周年命日を記念する。」：首都各界の記念会で、方覚は「総理を記念するには三民主義と国民民主	3面
		義を信じ、党中央に従わなければならない。この意義に背くものは国民党の敵だ！みんなで一緒に敵を打ち倒すべき」と演説した。総理は、国民の正当性となった。	

孫文が、大アジア主義に基づいて中国の自由と平和を求めながらも、大きな夢を実現できないままに旅立ったことは、メディア記事によって色濃く伝えられている。「表1」、「表2」の『申報』記事は、孫文を偲ぶ民衆の声が大きく取り扱われ、命日には、民衆が自発的に追悼を行っているという記事が目立つ。しかし「表3」の『中央日報』紙面では、中国国民党の機関紙という性質から、特に4年目になると、孫文の残した多くの遺産の足跡をたどりながら、国民党の政治政策を国民に呼びかけることに力を入れている。

「孫文の国葬記念日」にまつわるメディア記事からは、孫文が創作した中山服というよりも孫文の存在そのものが中国国民の心の中に存在し続けている。

2、国慶節に見る中山服 - 『申報』による記事 (表1)

新聞	年月日	記事	紙面
『申報』	1928年10月10日	上海の国慶節：世界で人口が6位。	2面
『申報』	1928年10月10日	「国慶節記念標語」：14項目（何でも反対）。スローガン「帝国主義、軍閥、共産党は全て反対」	3面
『申報』	1928年10月10日	「首都南京は空前の双十節」	3面
『申報』	1928年10月10日	広告「中山服記念時計」：懐中時計2元、腕時計3元、ネクタイ1元、パジャマ0.8元	6面
『申報』	1929年10月10日	広告「孫中山、孫中山夫人は中山服と娵のセパレーツを着ている」	5面

中国政府は国民党が政権を取ったが一年後、1928年10月10日の報道では、14項目（何でも反対）、スローガンに「帝国主義、軍閥、共産党はすべて反対」についての記事とともに「中山服を着用した孫文と旗袍のセパレーツを着用した宋慶齡」の広告が掲載されていた。

国慶節に見る中山服— 『申報』による記事 (表2)

新聞	年月日	記事	紙面
『申報』	1929年10月9日	「国慶日を祝う準備」：スローガンを10万枚印刷し、海軍の飛行機で散布する予定。	4面
『申報』	1929年10月9日	「総理記念碑落成式」：高さ10メートル位。	4面
『申報』	1929年10月10日	広告：「国慶日にシルクの総理（遺像を買おう!）」	6面

『申報』	1929 年 10 月 10 日	「各界は国慶を祝う」：セレモニーで孫文の遺像にお辞儀をする。孫文の遺言を読む	6 面
------	------------------	--	-----

この年の国慶節を祝う行事の記事は、「総理記念」を祝う行事の記事が目立った。1928 年 10 月 10 日の国慶節記念日にセレモニーで孫文の遺像にお辞儀をし、孫文の遺言を読んだと報道されている。まさに孫文は、「中国革命の父」としての孫文に対し、畏敬の念を持つ人々がいたということが窺える。

国慶節に見る中山服—『中央日報』による記事 (表 3)

新聞	年月日	記事	紙面
『中央日報』	1934 年 10 月 10 日	「新生活運動」：日常生活から社会国家を改造、服をきちんと着用していない人に、身だしなみを改正させる。服装が乱れている人に注意。	1 面
『中央日報』	1934 年 10 月 10 日	広告：「建国」	1 面
『中央日報』	1934 年 10 月 10 日	「全国運動会、今日の朝 10 時式典、午後競技開催」	2 面
『中央日報』	1934 年 10 月 10 日	「首都各界で国慶節記念会を行う」：建国・国力充実・援助。	2 面
『中央日報』	1934 年 10 月 10 日	生誕 共産党打倒 (背景に軍事勝利)	3 面
『中央日報 国慶増版』	1934 年 10 月 10 日	国を充実させて接収する (満州事変)。総理遺像 (孫文背広着用)	3 面

1934 年 2 月 19 日、南昌行營で蒋介石が「新生活運動の要義」という演説を行い、正式に新生活運動を提唱した。「表 3」は、その年の国慶節の日の記事である。孫文は中山服誕生の時に、衛生面、服装の身だしなみ、国産生地を使用などを唱えていたが、これが蒋介石によって受け継がれ、新生活運動へとつながり、さらに中山服への浸透へもつながっていったのである。

国慶節に見る中山服—『中央日報』による記事 (表 4)

新聞	年月日	記事	紙面
『中央日報』	1936 年 10 月 10 日	中央国府墓の前で、総理の法要、植樹、哀悼、孫文が保苦渋するときの背景。歴史についての演説。	1 面

『中央日報』	1936年10月10日	「民国成立25周年記念」全国今日行慶典：成績を述べ、外国に安定、発展を求める(蒋介石)。	1面
『中央日報』	1936年10月10日	「中央党歴史陳列館」；党を陳列で孫文の写真を展示。「総理ロンドンで亡くなった記念」。	2面
『中央日報 國慶増版』	1936年10月10日	当時の政治家4人を掲載(中山服着用2人、背広着用2人)。	5面
『中央日報 國慶増版』	1935年10月10日	國慶節への当時の政治家7人のコメント(中山服着用5人)。	5面

「表1」、「表2」、「表3」、「表4」を考察して理解できることは、孫文崇拜の記事が多い。さらに当時の中国服飾社会に於いて、国民の服飾マナーの意識が低いことを指摘している。新聞記事で国民にTPOを呼びかけていることは、時代背景を物語ると理解する。広告を見るとメーカーが増え、それによって広告が協力を産業ペースで民衆の心を捉え、煽られていく時代になってきた。特に1928年から1929年にかけて、『申報』に掲載された広告に、当時の傾向がはっきり打ち出されている。そのような流れの中で、1934年、蒋介石は「新生活運動」¹⁹を発動、それに伴って新生活運動に関わる内容を推し進める記事をメディアも大きく取り上げているわけだが、その生活運動の根底には、孫文が中山服制作の段階で推し進めた国産生地使用推奨などの運動があった。

また、國慶節に中山服を着用して座談会に出席している記事がいくつか掲載されており、孫文創作の中山服は、孫文が死去した後も、民国時代国民党の証しとして、そして政治的シンボルとして機能してきたことが分かる。

むすび

二千年程続いた中国伝統衣装の服装が、民国期に入り西洋式の衣服に代わっていき、そして中国式服装でも、背広でもない一種独特の衣服、中山服が誕生した。中山服は民国期の中国服飾史における政治的シンボルであり、着用して初めてその意義のある服装であった。

先行研究における黄敏、陳蘊茜両者の説では、当時の中山服は「民国時代のファッションとなった」とされているが、筆者がこの問題について考察した結

果、中山服は国民に注目こそされていたが、高額ゆえ、庶民の手にはなかなか手が届かない高嶺の花で、ある一定の人たち（資産階級、政治部門の制服）だけが着用することになったのではないかと理解する。また、「孫文記念における中山服」では、孫文の死後、孫文の国葬、国慶節について『申報』、『中央日報』の関連記事への考察結果からは、孫文の死後も、中山服がある一定の政治的シンボルとして機能していたことが分かった。

現在南京で国民党員の中山服を作り続けている「李順昌服飾有限公司」、そして官僚（共産党員）の中山服を引き受けている北京の「紅都服装店」は、いまだにはっきりとした政治カラーを持ち続け、中山服を制作している。

注

- 1 黄敏 株州師範高等専門学校教師 「株州師範高等専門学校学报」 「民国時期服装研究」。
- 2 陳蘊茜 南京大学歴史学教授 「身体政治」 「国家権力と民国中山服の歴史」。
- 3 『岩波中国語辞典』 岩波書店出版、1999年5月20日第一刷発行、574頁。
「申報」について：1872年イギリス人によって上海で創刊された。中国最初の日刊紙である。1912年から中国人経営になったが、1949年中国共産党軍の上海占領によって停刊。
- 4 『岩波中国語辞典』 岩波書店出版、1999年5月20日第一刷発行、793頁。
「中央日報」について：台湾の与党、国民党の機関紙。1928年2月1日上海で創刊。49年3月12日、日本社を南京から台北へ移した。71年から中国関連の資料室を設け、解説委員を中心に匪情研究を進め、台湾の日刊紙の中で中国関連の記事を最も多く取り上げる新聞である。
- 5 紅幫裁縫：王新元著『把服装看』 中国人民出版社、1999、18頁。
- 6 陳万豊論文「中山服出処」初析 寧波市人民政府主催『紅幫裁縫与寧波服装研討会文集』 寧波市鄞洲区
区廣電新聞出版局 2009年10月23日、76頁。
- 7 陳万豊論文「中山服出処」初析 寧波市人民政府主催『紅幫裁縫与寧波服装研討会文集』 寧波市鄞洲区廣電新聞出版局 2009年10月23日、76頁掲載。
- 8 方舟章益著『中国現代名人珍聞領事』 中国華僑出版社 1989年9月出版 399頁。
- 9 安毓英・金庚荣著『中国現代服装史』、中国輕工業出版社、1998年発行、39頁
- 10 服飾制度：『中華民国法規編』によると民国最初の「服飾制度」は、形成時期1912年

から 1915 年服飾に関わる法令で、法令項目は 22 項目である。

- 11 孫中山『復中華国家維持会函』、1912 年 2 月 4 日発行 『孫中山全集』第 2 巻、北京、中華書出版 1981 年出版 62 頁。
- 12 五・四運動：1919 年に起こった学生を中心とした反日愛国運動。狭義の五・四運動は第一次大戦後のパリ講和会議において、山東のドイツ利権が中国に返還されず、日本に付与しようとしたため、憤慨した学生の 3000 人が 19 年 5 月に天安門に集合、条約調印拒否曹汝霖、陸宗輿、章宗祥らの親日官僚罷免、日本製品排斥などを主張してデモを行ったことに端を発する。
- 13 『岩波中国語辞典』岩波書店出版、1999 年 5 月 20 日第一刷発行、423 頁。
「旧三民主義」と「新三民主義」について：孫文が 20 世紀中国の民族的危機打開を志して提示し救国のための政治理論。また、“救国思想”、民俗、民権、民生から成る。孫文は亡命中、ヨーロッパ社会をつぶさに研究し、先進資本主義社会になお存在する大きい貧富の差、そこに生まれる社会問題に注目し、中国の革命のためには共和制樹立の政治革命を平行していかなければならないと考えた。民生主義というこの主義が「三民主義」（旧三民主義）の顕著な特色を形成するものである。しかし、構想当初の三民主義は、多分に種族主義的なナショナルリズムと“専制から民主へ”という共和主義によって組み立てられており、民主主義（＝地権平均）については、産業化に伴う地価の上昇分を国家が吸い上げることを通じて貧富の差を未然に解消するという単純な内容を持つものだった。だが、全く解消されずにあっては、封建的な軍閥支配、対外的には列強からのいっそうの抑圧が進行し、孫文は新たな理論構築を追いやられることになった。こうした中で、孫文に画期的な転換を与えたのは、ロシア革命と五・四運動だった。彼は五・四運動の経験から民衆を基盤とした大衆運動としての中国国民党を創始すると共に、帝政ロシアの既得権益の放棄を宣言したソ連との連携の中に新たな道を求め、同時に三民主義の内容をも大きく転換させることとなった。早くも孫文の死の直後、載李陶は孫文主義を中国の道統を受け継ぐものとして儒家的伝統思想の中に位置付けたが、国民党の強力な理論的根拠を与えるものとなった。他方、毛沢東もまた、抗日戦争を迎えて第 2 次国共合作が実現する中で、晩年の孫文思想を“新民主主義”と規定し、“資本節制”などを根拠に、中国共産党はそれを受け継ぐ形で奮闘すると主張（「新三民主義」）。
- 14 『中央日報』、「薛内長的談話」、1928 年 2 月 3 日。
- 15 『教育と職業』、1928 年 7 月発行、北京市檔案館資料。
- 16 Antonia Finnane、*Changing Clothes in China*、New York、Columbia University、2008、184 頁。
- 17 新成分局民 34 年度刑字第（239 号）、上海特別市警察局、「洗濯店強盗事件」。
- 18 新成分局民 35 年度刑字第 1038 号、上海特別市警察局「中山服詐欺事件」。

- 19 新生活運動について：1934年、蒋介石は国民政府軍事委員会南昌行政において新生活運動を発動した。この運動は「礼・義・廉・恥」という伝統的な道徳を基本的な精神とし、国民政府の軍事化・生産化・美術化（合理化）を中心目標とし、「整齐・清潔・簡単・素朴・敏速・確実」を実施原則とし、それを「食・衣・住・行」、人々の日常生活に体现させることによって、近代国家の達成を目指したのである。

参考文献

- 横山宏章『孫文と袁西凱—中華総合の夢』、岩波書店、1996年。
段瑞聡『蒋介石と新生活運動』、慶応義塾大学出版会、2006年。
藤井昇三、横山宏章著『孫文と毛沢東の遺産』、研文出版、1992年。
小島朋之『中国現代史』、中央公論親書出版、1997年。
中島峯雄『中国現代史』、有斐閣、1981年。
見多識廣『教育と職業』、1928年、北京市檔案館資料
ルシアン・ビャンコ『中国革命の起源 1915-1949』、東京大学出版会、1967年。
陳蘊茜『学術月刊第39巻 9月号』「国家権力と民国中山服の歴史」、2007年。
孫中山『孫中山全集』第2巻、北京、中華書出版 1981年。
胡波、蘭曉君『中山装』、広東省出版集団広東人民出版社、2008年。
方舟章益『中国現代名人珍聞領事』、中国華僑出版社、1989年。
安毓英・金庚榮『中国現代服装史』、中国輕工業出版社、1998年。
寧波市人民政府主催『紅幫裁縫与寧波服装研討会文集』、寧波市鄞州区廣電新聞出版局
2009年。
王新元、祁林『把服装看』、中国紡績出版社、1999年。
黄敏『株州師範高等専門学校学報』、「民国時期服装研究」、株州師範高等専門学校出版、
2004年。
『申報』、1872年発刊。1925年、1927年、1928年、1929年。
『中央日報』、1928年発刊。1929年、1934年、1935年。
Antonia Finnane、*Changing Clothes in China*、New York、Columbia University、2008。